

総合情報メディアセンター

荒牧祭特別展示

担当学科等

担当者 田中 麻里センター長

◎事業概要

考古学者の尾崎喜左雄博士(本学名誉教授)が発掘調査を行った古墳は、県内270箇所以上になり、収集された考古遺物、調査日誌や記録写真等は教育学部の倉庫に保管されている。その内容は「尾崎喜左雄博士調査収集考古遺物・調査資料目録」(本学教育学部編、雄山閣、2004)に纏められているが、尾崎博士の業績を知る人は学内でも限られており、今まで一般には公開されてはいない。今回、荒牧祭の開催に合わせて、中央図書館で「尾崎喜左雄博士展」として、尾崎博士が遺した考古遺物や調査資料等の一部を一般に公開する。企画を計画するに当たり、平成28年3月に本学教育学部と群馬県立歴史博物館との間で締結された協力申し合わせに基づき、展示する考古遺物の選定や展示方法、資料解説のパンフレットの作成及び展示会初日に行われる考古遺物の解説(ギャラリートーク)等に、群馬県立歴史博物館に協力を得る。また、開催を広く学外に周知するため、広報用ポスターを作成し県内各機関に掲示を依頼するとともに、展示会来場者にパンフレットを配布する。総合情報メディアセンター及び本学のホームページで告知するほか、近隣自治会へ回覧板による広報や各メディアにもプレスリリースする。展示期間は、荒牧祭2日間(11月11日(土)及び12日(日))とする。その後の約1ヶ月間ギャラリーにてパネル展示を行う。

◎実施事業等

「尾崎喜左雄博士展」の荒牧祭との同時開催に向け、教育学部が群馬県立歴史博物館に寄託している大型考古遺物3点(朝子塚古墳の壺形土器、石山南古墳の女子埴輪、高塚古墳の弓形埴輪)を中心に展示することを決定し、同館教育普及係長の深澤敦仁氏に、本学が保管している考古遺物から展示するものを選定いただき、尾崎博士の業績と発掘に携わった県内の古墳を紹介するパンフレットと展示用パネル及び広報用ポスターを作成した。作成したポスターは県内467機関(市町村、美術館、博物館、公民館、高等学校、報道機関等)及び学内各部署に配付した。展示会の準備は、歴博の深澤氏の指導のもと進められ、展示に使用する器具等も歴博から無償で借り受けることができた。荒牧祭当日は、学園祭実行委員の協力を得て、来場者の受付で学園祭パンフレットと一緒に展示のチラシを配布した。また、図書館周辺にも案内板やポスターを掲示して来場者を誘導した。学園祭初日の11/12(土)には、11:00～、14:00～の2回、深澤氏によるギャラリートークを行い合計80名の参加があった。来場者にはパンフレットと展示に関するアンケートを配付し、アンケート回答者には、メディアセンターオリジナル猫絵バッグをプレゼントした。荒牧祭終了後は、ギャラリー内及びロビーの一部にてパネルと考古遺物・資料の展示を12/16まで行った。

◎期待される成果

尾崎喜左雄博士(本学名誉教授)は、昭和21年から45年と長年にわたり県内の古墳発掘調査に携わり、県内270以上の古墳の調査を行った。国内でも有数の古墳王国である群馬の考古学の礎を築いた研究者である。尾崎博士の長年の研究成果は、現在も教育学部の倉庫で保管されており、「考古遺物・記録・写真」の3点が揃った調査資料は全国でも類を見ない貴重な資料であると専門家からも高く評価されている。長年学部の倉庫に保管され、公開される機会のなかった尾崎博士の考古遺物を、本学所蔵の貴重な資料として広く一般市民に公開し、本学のイメージアップとともに、図書館の利用者数の増大を図った。荒牧祭特別展示には、2日間で延べ618名の来場者があり、アンケート回答者の9割以上が中央図書館を初めて訪れた学外者であった。今回は本学が所有する貴重な資料を紹介すると同時に、本館が一般市民に広く開放されていることを知らせる契機となった。アンケートの回答には、もっと多くの考古遺物や調査資料を見たいという声が多数寄せられており、尾崎喜左雄博士展は今後も継続的に開催する予定である。また、本学の学生にも尾崎博士の業績を周知するため、展示の一部を常設展示することとなった。